

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972100457		
法人名	社会福祉法人 幸知会		
事業所名	グループホーム ヘブンリートータス		
所在地	栃木県河内郡上三川町下神主231-1		
自己評価作成日	平成23年 8月 30日	評価結果市町村受理日	平成23年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームページにてスタッフブログを更新することで、契約者のみならず、遠方の家族の方にもタイムリーにホームの様子が分かる。季節に合わせた行事の充実や食事については当日にメニューを決め、出来るだけ利用者の食べたい物が食べられる点、利用者との一対一の誕生日外出、年に2回、家族との交流の場を設けたりし、楽しんで頂いている。また、利用者のちょっとした要望にも可能な限り、実現できるように職員各々が情報を共有し、取り組んでいる。公文学習療法や施設内通貨の取り組みにて認知症の改善や自立支援を行なっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成23年 9月 21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 和風の日本家屋を思わせる建物は、木の温もりを感じさせる落ち着いた造りであり、壁面や調度品は手作りの作品などが飾られ暖かい雰囲気を出している。2. 法人の理念及び指針は職員一人ひとりに良く浸透しており、利用者にとった介護を職員は共有し主体的に取り組んでいる。3. 新たな取り組みとして、施設内通貨やくもん学習療法を取り入れ、利用者の残存能力を少しでも引き出しADLを下げないようにと積極的に行っている。4. ホームページを利用してタイムリーにホームの情報を発信している。5. サービスの提供に関する 計画・実施・評価の手法はサービスの向上のための継続性が感じられる。6. 利用者が、個人の思いを大切にし ゆったりと大正琴を弾いたり、読書をしたりして生活を楽しむことのできる 家庭的なホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「経営理念」「指針」を事務所に掲げ、全職員が毎日唱和して、意識を高め、日々の業務に当たっている	経営理念と指針を事務室に掲げ、朝礼と午後の引き継ぎに全職員が唱和している。職員一人ひとりが理念を良く理解し、理念に基づいた実践が毎日のケアに活かされている様子が覗かれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常の散歩で地域の方との交流を深めているが、老人会への参加、交流は難しいボランティアの受け入れや隣接しているデイサービスの利用者との交流もできている	日常の散歩や毎日の食材等の買い出しを通して地域の方との交流を深めている。またホームページのブログを利用して施設の様子をリアルタイムに発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、ホームの様子を報告することにより、町職員や地域住民の民生委員に認知症の方を理解して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度(6回/年)運営推進会議を行い、ご家族や入居者から意見を伺い、日々のケアに活かしている	運営推進会議は利用者、家族、町職員、地域民生委員などが参加して、2ヶ月に1度開催している。利用状況や活動報告等の報告を行い、参加者から意見や助言をもらい、運営に反映している。	町職員や民生委員など地域の方々も参加しているが、駐在さんや消防団など地域の防災関係者や、自治会からの参加も願うなど、より地域と密着した形での継続性のある運営推進会議になる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見交換や相談だけでなく、行事への参加により、現場で利用者と一緒に頂き、より良い関係を築けるよう取り組む	運営推進会議での意見交換や相談は情報を共有するとともに日常的な協力関係を構築している。今年度は「味覚祭」に町職員が来てくれることになっており、利用者との触れ合いを通して、より深い関係を築けるよう計画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人に身体拘束事故防止委員会があり、毎月、目標を掲げ、全職員が本人の意思を尊重した自由な生活を送れるように意識してケアに努めている	散歩の介護にしても、利用者一人ひとりのADLに配慮しながら、精神的なストレスにならないよう注意しながら対応している。職員主体にならないよう、拘束より「気持ちが落ち着くまで付き添う」等、利用者への配慮を全職員が心がけている。日中は見守りにより玄関等の施錠はされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束事故防止委員にて高齢者虐待防止関連法について学び、虐待を行わない意識付けを発信している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な研修会には積極的に参加している 利用者1名が上三川町社協の成年後見人制度を利用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容の読み合わせを行い、不安な点や疑問点の解消を図ると共に、入所後でも疑問が出た時には説明している また、変更時には文面・口頭両方で説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・家族に参加して頂き、意見や要望を伺っている 玄関に意見箱を設置し、自由に投書出来るよう配慮している	運営推進会議に利用者・家族に参加して頂き意見や要望を聞いている。日常的にも、家族が面会に来た時の何気ない言葉のキャッチボールの中から、意見や要望をくみ取り、運営に反映している。最近家族との電子メールで双方向の意見交換が出来るようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、部所の定例会議、法人全体の職員会議だけでなく、年に2回、個人面談にて意見や提案を聞く機会がある	日常的に管理者や先輩と相談したり意見を言いやすい雰囲気を作られている。定例会議や職員会議ではあらかじめテーマを決め事前に資料を渡し、一人ひとりの職員に考えてきてもらい、職員の意見や提案を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、上司との面談で勤務状況だけでなく、個人の目標や自己評価などを把握した上で、上司の評価も合わせ、反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に新人教育を受け、その後主任、リーダーに付き、勉強していくが、その他、適宜行なわれる委員会での勉強会でも職員全員で参加できる機会がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老施協の中のグループホーム部会に入会したり、栃木県グループホーム協会に入会して、その中でネットワーク作りをして意見を交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームを見学して頂き、雰囲気を感じて頂いた上で、不安を和らげ、困っている事を親身になって聞く事により、信頼関係を築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、話を伺う事で、少しでも不安を和らげ、困っている事や要望を知り、信頼関係を築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から現状を伺い、要望に添う努力をしている また、必要な支援が他のサービスと思われる場合には、他の相談者も本人に適したサービスがある場合には他の相談者を紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と家族同様の接し方をすることで、ニーズを引き出し、喜びの倍増、悲しみの軽減に結びつくよう支え合う関係を築くように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所してからも家族との関係は大切にして頂きたいので、行事への参加、面会だけでなく、受診においても家族に行って頂く事により、本人の健康状態を理解して頂き、一緒の時間を持って頂く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者との会話の中で挙がった人について電話の発信・受信や手紙の投稿、遊びに来て頂いたり、関係の継続を支援している	利用者との会話の中で挙がった馴染みの人については電話や手紙を使って関係の継続を支援している。家族の了解の元、馴染みの人との外出なども可能である。馴染みの場所については、利用者の要望を聞き家族とも協力して支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のため、生活歴・性格等から人間関係がうまくいかずトラブルになる事も有るが、居室を変更したり、声かけで安心して頂くことで、お互いの部屋の行き来により、より一層の友好的関係が築けて		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の理由によるが、長期入院の方に対してはお見舞いに行ったり、隣接の特養へ移られた方には面会に行き、支援上の配慮など、情報を詳しく伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって居心地の良い生活をして頂けるよう、ニーズを引き出している 困難な場合は家族と相談し、本人にとって最良と思われる生活を送れるように努めている	入居時の利用者や家族からの聞き取りをもとに、利用者との日常の会話の中から希望や意向の把握に努めている。利用者のちょっとした変化を見逃さないようにし、家族からの意見にも耳を傾けながら本人本位の生活を送れるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報と本人とのコミュニケーションで得た情報をもとに、これまでの生活歴(職業・趣味・昔の暮らしぶり)等を把握し、サービスに役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴をもとに個々の能力を活かし、その人らしく暮らしていけるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望ややりがいを第一に考え、家族にも理解して頂いた上で、介護計画書を相談、作成している また、状態の変化に伴い、見直しを行っている	本人の希望ややりがいを第1に、家族の意見も聞き管理者を中心に担当者会議で職員と相談しながら介護計画を作成している。 6ヶ月毎の見直しの他状態の変化によっても見直しがされている。	定期的な見直しや継続性のある介護計画が作られている。更にスパイラルアップしていくように、長期的な視点に立った介護計画に進化していくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の出来事や健康状態などを記録し、勤務前に目を通し、情報の共有をしている気になった点はミーティング等でその都度話し合い、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養やデイサービスが隣接しているため、協力・連携体制は取れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで地域交流として音楽や下肢マッサージなどのボランティアを受け入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望している病院で受診して頂き、主治医にホームでの状況を提供するなどの連携を図っている	本人家族が希望するかかりつけ医への受診を大切にしている。定期受診の付き添いは家族にお願いしているが、主治医にホームでの情報を提供したり、受診時の状況を御家族にお聞きするなどの連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の気になる方は朝・夕に看護職へ報告・相談し、指示を仰いでいる 毎日、1度は看護師が来るので、気になる方を直接診て頂き、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態については病院側・家族側の両方から確認を行い、退院に向けて病院と相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が元気なうちに本人の希望、または家族の希望に添えるよう、職員間で意思の統一を図る随時、意思を確認し、ハード面での限界がある事を伝えた上で、本人が望む生活ができるよう支援している	本人・家族の意向を職員全員で認識し、ハード面での限界があることを伝えた上で、居るだけの支援にならないようまた他の利用者さんにしわ寄せが行かないよう考慮しながら、ホームで出来る最善の支援が出来るよう心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時、全職員が速やかに対応できるよう看護職の協力のもと、訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上防災委員会の協力のもと、あらゆる場合を想定し、避難訓練を行っている 地域の方への協力は特に要請していない	年2回の総合訓練の他、法人の防災委員会の協力の下あらゆる災害を想定した避難訓練、消火訓練、通報訓練などが行われている。実際の災害時は、法人施設の協力や近隣に住む施設長の協力も得られるような体制が作られている。	非常災害計画や非常災害マニュアルに基づいた避難訓練が実施されているが、地域の方達と連携協力した避難訓練の実施に向けての地域との連携に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応など、不快感を与えないように心掛けている 居室訪室や排泄介助にはプライバシーの配慮を十分気を付けている	職員全員が、利用者さんの気持ちを尊重しながら、家族的な雰囲気を大切に出来るような暖かい言葉かけに心がけている。居室の訪問や排泄・入浴介助にはプライバシーや羞恥心に配慮したきめ細かい気遣いがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切にして、思いを上手く引き出せるような声掛けや雰囲気作りに注意している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味・特技を活かして頂けるよう、出来る限りは1人一人の時間を大切にして頂いている。 散歩 や外出等も、なるべく希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重し、その人らしさ、こだわりを大切にしている。 難しい方にはさりげなく、整えられるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事に応じて、それぞれが役割を持ち行っている メニューも希望に添うよう毎日考えながら一緒にしている	食事には旬のものや行事食など季節に合わせたメニューを取り入れている。普段の献立は利用者と一緒に考え、食材の買い出しも一緒に行っている。冷蔵庫の食材を利用して知恵を出し合いながら献立を決めることもある。食事作りや片付けなど利用者も自然に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ・食事は常に水分・食事摂取量に目を配り、変化のある時は記録に残し、状況に応じた対応をとっている 随時、栄養士に相談し、アドバイスをもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛け、介助を行い、就寝前には義歯を預かり管理している 拒否のある方については、うがいでの対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握した上で、トイレの声掛け、誘導を行っている スムーズなトイレ誘導が行えるよう、入居者のサインを見逃さずに尊厳ある声掛けを心掛けている	利用者ごとの排泄パターンを把握し、さりげないサインをも見逃さないようにしながらトイレの声かけ誘導を行っている。利用者の羞恥心に配慮して、他の利用者に気付かれないような何気ない声かけにも心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、10時のおやつ時の牛乳を提供、栄養士の助言のもと、便秘予防の食材や調理法などを取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、午後に入浴できる体制をとっている 順番や一緒に入りたい人などを考慮し、トラブルなくゆっくりと入れるようにしている 希望者には足浴や清拭を行う	入浴は毎日午後2時～4時の時間帯で行われている。一人ひとりの順番や一緒に入りたい等の希望も考慮しているが、不公平にならないような配慮もなされている。入浴拒否の方には、時間をかけ根気よく声かけをして不安を取り除く支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムで昼寝や就寝時間を決めて頂いている 夜間の不眠時は声掛け、対応で安心して頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の説明書を個人記録のファイルに綴り、全職員が把握している内服の確認や状態の変化確認も行い、記録に残している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと、好きなことを行って頂き、生き生きと生活して頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、外食会、日帰り旅行などで本人の希望する外出ができるように日頃から個々の希望を把握し、家族の協力のもと支援している	一人ひとりの希望やADLに添ったきめ細かな外出支援がなされている。担当と利用者が話し合い、誕生会や外食会を実施して、「担当を独占できる日」などが設けられている。職員間の共通理解のもと、利用者との一泊旅行なども行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設でお金は預かっているが、家族が了承している人は本人が管理している小遣いもあり、買い物や外食など状況に応じて自己にて支払っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方に関しては自由に家族や友人と連絡を取り合っている 無い方の要望には施設の電話を使用して頂いており、取り次ぎもしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や飾りでホールや居室入口を彩り、心地良い空間を目で楽しんで頂いている	和風を基調とした建物は、木の温もりを感じさせる。壁面や装飾品は職員や利用者の手作りで、調度品を含めて落ち着いた暖かさを感じさせている。キッチンオープンキッチンで入居者が調理や片付けをしやすい造りになっている。天井は高く明かり窓などもあり、採光や通風にも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット毎に1つずつ掘りごたつがあり、テレビを見たり、畳で横になったりと寛いで頂いている また、ソファでは新聞やゲーム、会話など自由に過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に慣れ親しんだ物を持ってきて頂き、室内を好きなようにレイアウトして頂いている	居室は仏壇や筆筒など慣れ親しんだものを持ち込み、写真や趣味の手作り品などを思い思いに飾り居心地良く過ごせるよう工夫されている。入り口ドアは一人ひとりの目線にあった場所に名札や写真を貼り、居室を間違えないような工夫や配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のペースを大切に、焦らず行えるように支援し、分かる力・考える力を活かせるようにしている		